

<h1 style="font-size: 2em;">指導資料</h1> <p>鹿児島県総合教育センター 平成29年4月発行</p>	<h1 style="font-size: 2em;">国語</h1>	<h1 style="font-size: 2em;">第138号</h1>
	対象校種	幼稚園 小学校 中学校 高等学校 特別支援学校

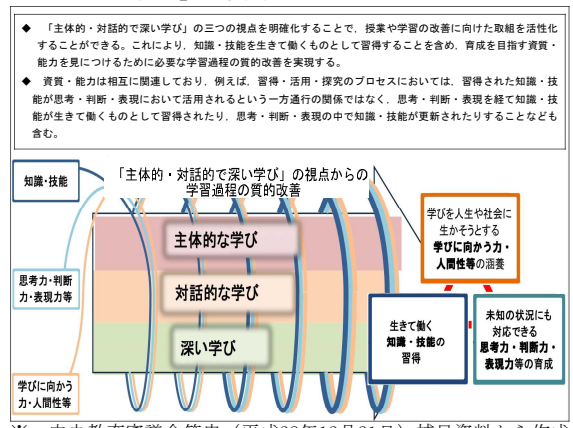
「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に関する考察
— 言語活動の充実を図る中学校国語科の授業実践を通して —

「主体的・対話的で深い学び」の視点のうち、特に「対話的な学び」に着目した国語科の指導法について、中学校第3学年で行われた授業実践を通して紹介する。

1 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について

中央教育審議会による「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（以下「答申」という。）では、育成を目指す資質・能力として、学校教育法に規定された、「学力の三要素」を踏まえた「資質・能力の三つの柱」が示された。あわせて、このような資質・能力の育成と「主体的・対話的で深い学び」の関係が示された（資料1）。

資料1 資質・能力の育成と「主体的・対話的で深い学び」の関係



※ 中央教育審議会答申（平成28年12月21日）補足資料から作成

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善とは、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の三つの視点から、言語活動をより一層充実させ、生徒の学びの質を高めていくことである。

この視点は、生徒の学びの過程としては一体として実現されるものであり、それぞれ相互に影響し合うものである。また、生徒の資質・能力を育成する上で重要な点を異なる側面から捉えたものであり、授業改善を取り組むための固有の視点であることに留意する必要がある。

国語科は、言語活動を通して資質・能力を育成する教科である。そのため、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの言語活動の充実が、授業改善の重要なポイントである。

2 「対話的な学び」について

「対話的な学び」とは、生徒同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えることなどを通じ、自己

の考えを広げ深める学びである。また、答申には、国語科における「対話的な学び」の視点について、資料2に示す記述がある。

資料2 国語科における「対話的な学び」の視点

「対話的な学び」の実現に向けて、例えば、子供同士、子供と教職員、子供と地域の人が、互いの知見や考えを伝え合ったり議論したり協働したりすることや、本を通して作者の考えに触れ自分の考えに生かすことなどを通して、互いの知見や考えを広げたり、深めたり、高めたりする言語活動を行う学習場面を計画的に設けることなどが考えられる。（下線は筆者による）

※ 中央教育審議会答申（平成28年12月21日）から引用

生徒は、他者とのやり取りを通して多様な考えに触れることができ、自分の考えを相手に分かりやすく説明することで、自分の考えをより確かにすることにつながり、物事に対する広く深い理解を生むことができる。また、他者とのやり取りだけではなく、テキスト（文章や本）との対話、作者との対話など自分一人での取組でも広く深い理解が生まれることに留意したい。

3 「判断基準」の設定

「対話的な学び」を充実させるためには、言語活動を通して、どのような資質・能力（指導事項）を身に付けるのかを明確にしておかなければならない。そのためには、生徒に身に付けさせる資質・能力をどのように評価するのかを具体化しておく必要がある。そこで、当センターが提唱している「判断基準」の設定による指導と評価を提案したい。「判断基準」とは、生徒の思考や判断の結果が表現される「説明」や「論述」等において、目標の達成状況を判断する具体的な尺度のことである。中学校第3学年「和歌の世界」における「判断基準」設定の具体例を表に示す。

表 「判断基準」設定の具体例

評価規準	
和歌を読んで語句の意味や表現の特徴などを考え、選んだ和歌の魅力や文章にまとめている。 (読むこと)	
評価の場面	
選んだ和歌の紹介文を練り上げていく場面	
評価の対象	
選んだ和歌を紹介した文章	
判断の要素	
ア	語句の意味
イ	表現の特徴
ウ	和歌の魅力
判断基準B	
ア	<u>語句を引用し、語句の意味を理解して書いている。</u>
イ	表現の特徴を捉え、 <u>情景や心情について適切に表現している。</u>
ウ	<u>和歌の魅力について表現している。</u>
【予想される生徒の表現例】	
「見わたせば花も紅葉もなかりけり浦の苫屋の秋の夕暮れ」を選んだ場合 この和歌の最大の魅力は、 <u>色彩を取り去った後の風景を描いているところにある。</u> この和歌は「 <u>花も紅葉もなかりけり</u> 」とあえて美しいものを除去している。 <u>花も紅葉もない風景に物寂しさを感じているの</u> だろうか。	
判断基準A（判断基準Bに加えて）	
詠まれた時代背景を踏まえて解釈している。	

4 「対話的な学び」を実現するための工夫

「対話的な学び」を実現するためには、対話を行うことで自他の思考の広がりや深まりが期待できる課題を設定することが大切である。そして、課題解決に向けて行われる交流学习が活性化するような手立てを講じたり、学習を通して思考の広がりや深まりが自覚できるような工夫を行ったりすることが大切である。

「対話的な学び」を実現するためのポイントを資料3のように捉えた。

資料3 「対話的な学び」を実現するためのポイント

- 課題設定の工夫
- 教材教具の工夫
- 交流学习を活性化させる工夫
- 学習形態の工夫
- 学習の振り返りの工夫

5 言語活動の充実を図る授業実践の例

本実践は、中学校第3学年「読むこと」（教材「和歌の世界」三省堂3年）において、特に「対話的な学び」に着目して行われたものである。

(1) 単元名 和歌を紹介しよう（全5時間）

(2) 単元の目標

- 学習に進んで取り組み、和歌について感想をもち、交流を通して考えを深めることができる。 【関心・意欲・態度】
- 和歌の形式や表現の特徴を理解しながら読み、和歌に描かれた情景や心情を想像豊かに捉えることができる。 【読む能力】
- 和歌に詠まれた情景や心情に触れた紹介文を書くことを通して、古典の世界に親しむことができる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】
- 古典の一節を引用するなどして、古典に関する簡単な文章を書くことができる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

(3) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
和歌に用いられている語句の意味を理解し、情景や作者の思いを想像豊かに読み取ろうとしている。	和歌の語句や表現に着目し情景や作者の思いを読み取っている。 和歌の形式や表現の特徴を捉え、その効果について考えている。	歴史的背景などに注意して読んだり、和歌の紹介文を書いたりして古典の世界に親しんでいる。

(4) 単元の指導計画

時	学習活動	「対話的な学び」を実現するためのポイント
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の学習に見通しをもたせるために、課題や単元を通して行う言語活動について確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>和歌に描かれた情景や心情が、誰にでも伝わるような紹介文を書こう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「万葉集・古今和歌集・新古今和歌集」の時代背景や作品の特色についてまとめる。 ○ 和歌のリズムや意味の切れめに注意して、教材にある和歌を音読する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題設定の工夫 さらに、作成した紹介文は、校内に掲示することを伝える。 具体的な課題を設定することで、対話を通して、自分の考えを広げたり深めたりしながら課題解決に取り組む意欲を高めている。
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 共通課題の和歌「君待つと吾が恋ひをれば我が屋戸のすだれ動かし秋の風吹く」について、注釈や補助資料を参考に和歌の魅力について考える。 ○ 和歌の魅力を紹介している文章の中で、どれが一番魅力を感じるか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教材教具の工夫 思考の流れが分かるように構成されたワークシートを活用している。また、他者の意見が可視化できるように付箋を活用している。 ※ ワークシート等についてはp. 4 参照
3・4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教材にある季節に関する四つの和歌から、心に響いた和歌の一つを選び、本や補助資料を参考に情景や心情について考える。 ○ 考えた情景や心情を基に紹介文を書く。 ○ 前時に作成した和歌の紹介文を班（異なる和歌を選んだ生徒同士）で交流する。 ○ 同じ和歌を選んだ生徒同士でグループを作り、選んだ和歌の魅力について話し合う。 ○ 話し合いを基に改めて紹介文を検討する。 ○ 最初に書いた紹介文と比較し、感想を書く。 ○ これまでの学習を通して、和歌の魅力について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 交流学习を活性化させる工夫 和歌を解釈するための視点（背景、作者、ことば・表現、情景、心情）を焦点化している。また、この視点を、比較、対照、説明などで活用させ、「対話的な学び」を行う際の要点としている。
5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作品の比較を通して時代や歌集による和歌の特色に気付かせ、伝統文化としての和歌について関心を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習形態の工夫 多様な意見が聞けるようなグループ編成を工夫している。 ○ 学習の振り返りの工夫 学習を通して気付いた和歌の魅力を、簡潔な言葉で表現させている。

（鹿児島市立吉田南中学校 松元智宏教諭の実践を基に作成）

(5) 第3・4時におけるワークシートと付箋の活用

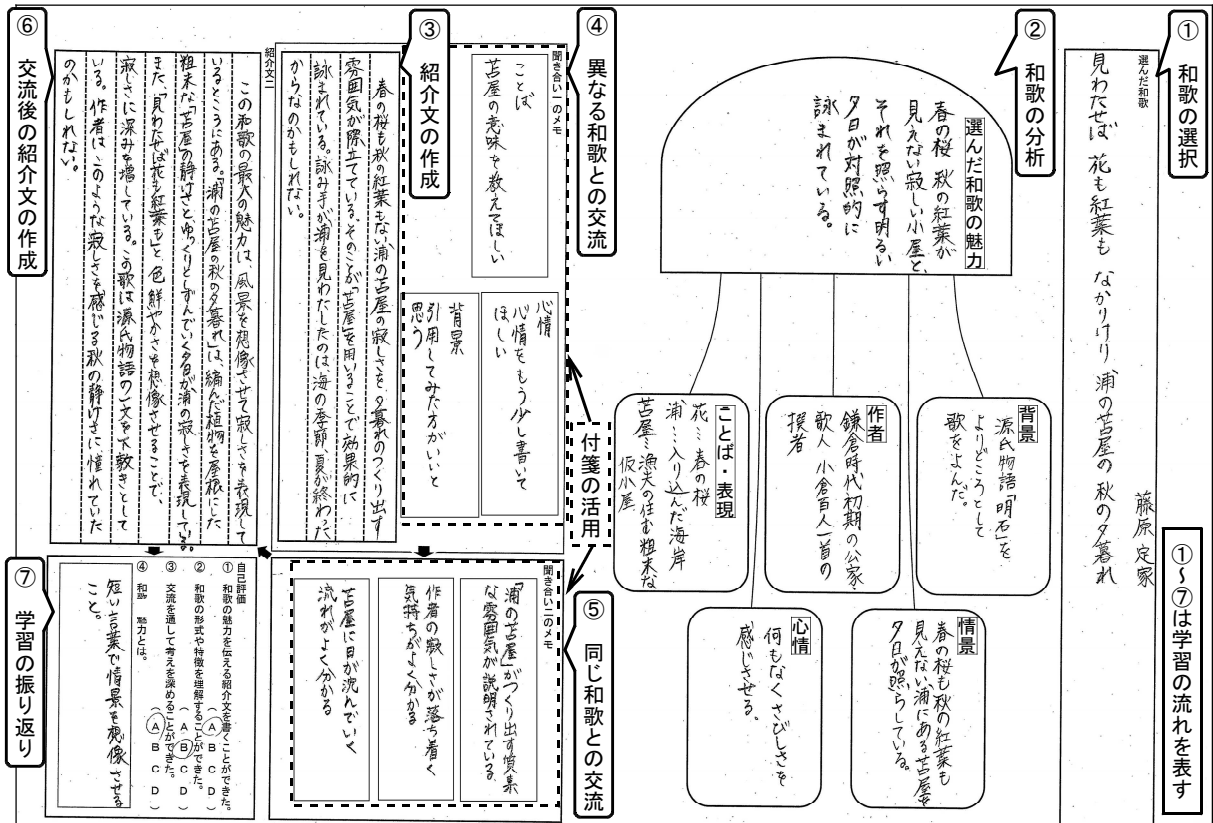


図 ワークシートと付箋の活用の実例

本実践の第3・4時では、自分自身でじっくりと考える場面と生徒同士の交流を通して考えを広げ深める場面を明確にするために、ワークシートと付箋を活用している。

図において、第3時(①～③)は、自分一人で取り組む学習で構成している。その中でも、②の和歌の分析は、紹介文を書くための視点を明確にし、紹介文を書く際の糸口としている。

第4時(④～⑦)は、生徒同士での交流を通して考えを広げ深めるように構成している。④では、異なる和歌を選んだ生徒から率直な意見をもらい、⑤では、同じ和歌を選んだ生徒同士で、内容を理解した広く深い話し合いを行っている。⑥の交流後の紹介文と③の交流前の紹介文を比較すると、語句に対する理解が深まり、視点を十分に活用して、内容が充実したものとなっている。⑦の学習の振り返りで、学習を通して

の気づきを問い掛けることで、「言葉による見方・考え方」の深まりがうかがえる。

このように、「対話的な学び」に着目して授業を行うことは、思考・判断が繰り返され、新たな気づきが生まれるため、学びの質の向上が図られると考える。

本稿では「対話的な学び」に着目した授業実践を紹介した。「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を行うには、それぞれの固有の視点を捉えた言語活動の充実を図ることが大切である。単元や題材のまとまりの中で、固有の視点と指導内容を関連付けながら、学びの質を高めていく授業改善が行われることを期待したい。

—引用・参考文献—
○ 文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編』平成20年、東洋館出版社
○ 鹿児島県総合教育センター『研究紀要 第119号』平成27年3月
○ 鹿児島市立吉田南中学校『主体的・協働的に学ぶ生徒をはぐくむ学習指導』平成28年10月
○ 鹿児島県総合教育センター『研究紀要 第121号』平成29年3月
(教科教育研修課)